

低・中所得国の青年期の予防的栄養介入に関するエビデンスは乏しい



低・中所得国の青年期における予防的栄養介入に関するエビデンスはあまりにも不足しており、実践に決定的な意味合いを与えるものはない。

このレビューの目的は何か？

このキャンベルの系統的レビューは、低・中所得国の青年期における予防的栄養介入に関する10件の研究から得られた知見を要約したものである。

栄養不良は、低・中所得国(LMICs)の青年期における罹患率および死亡率の最も一般的な原因の1つである。予防策としては、栄養教育とカウンセリング、微量栄養素の補充・強化、および多量栄養素の補充が挙げられる。微量栄養素の補給と栄養強化プログラムを評価した研究はほとんどない。そのような研究はあっても、質が低く、一般的には効果がないとされている。

他の予防策、すなわち多量栄養素の補給や栄養教育やカウンセリングに関する研究はない。

このレビューの目的は何か？

栄養不良は、青年期の罹患率と死亡率の最も一般的な原因の一つであり、現在では、貧しい食生活と並んで、世界的な疾病負担の最大の危険因子の一つであると考えられている。本レビューでは、低・中所得国(LMICs)の10~19歳の青年の健康と栄養状態を改善するための予防的栄養介入(栄養教育とカウンセリング、微量栄養素の補充/強化、多量栄養素の補充を含む)の影響を評価している。

どのような研究が含まれているか？

対象となる研究は、無作為化比較試験(RCT)、準実験的研究、対照ビフォーアフター研究、または中断時系列研究で、LMICsの10~19歳の青年における予防的栄養介入の有効性を評価したものでなければならなかった。

本レビューでは、10,802人の参加者を含む15の論文から10件の研究のエビデンスを要約している。含まれた研究はすべて微量栄養素の補充と栄養強化を評価したRCTである。対象となった研究のうち1件を除いて、すべての研究で思春期の女子が介入群となっていた。

微量栄養素の補給、栄養教育およびカウンセリングを評価した研究は見当たらなかった。

